

■阪神高速グループの求める技術 重点項目

【タイトル】：標識柱のき裂損傷発生後のモニタリング手法
【背景・課題】：高速道路上の標識柱の一部にき裂等の損傷が発生した場合、き裂の進行具合から標識柱の補修・取替等の対応までの緊急度を判断することが求められる。しかしながら、現有の技術ではひずみゲージ等を用いて部材の応力を測定し、その状況変化からき裂の進行を予測することで間接的に緊急度を評価せざるを得ない状況であり、また、損傷の進行速度や新たな損傷発生の把握は困難である。そこで、損傷発生後の標識柱を長期的にモニタリングする技術が求められている。
【ゴール・目標】：長期的にき裂損傷の状況をモニタリングする手法の確立
【実現イメージ】： 都市高速道路を建設・管理する総合的な技術 将来にわたる使用のための管理・更新手法の実現
【取組み】： IoT、3次元モデル、ロボット等の新技術を活用して維持管理を高度化・効率化
【対象設備－対象構造物】： 付属構造物 - その他
【業務分野】： 維持管理

(2025年7月時点)